

平成26年12月10日

八街市議会議長 湯浅 祐徳 様

会派名 やちまた21  
代表者名 加藤 弘



### 先進地視察報告書

先進地視察の概要を下記のとおり報告します。

### 記

#### 1. 視察者名

- ・ 加藤 弘
- ・ 林 政男

#### 2. 視察期間

平成26年11月25日(火)～平成26年11月27日(木)  
(3日間)

#### 3. 視察先及び視察目的

- (1) 11月25日(火) 岩手県盛岡市(株)中原商店 経営理念、今の消費に纏わる話、企画手腕の話
- (2) 11月26日(水) 岩手県紫波郡紫波町 駅前区画整理事業について(オガールプラザ)
- (3) 11月26日(水) 岩手県紫波郡矢巾町 矢巾町文化会館(田園ホール)について
- (4) 11月27日(木) 岩手県滝沢市 滝沢市IPUイノベーションセンター(滝沢アグリIT化研究会)について

#### 4. 視察報告

- (1) 岩手県盛岡市(株)中原商店 経営理念、今の消費に纏わる話、企画手腕の話

## ■会社概要

屋号

ぴよんぴよん舎

所在地 岩手県盛岡市稲荷町 12-5 電話番号 019-647-0474

代表者 代表取締役社長 邊 龍雄 創業 昭和 30 年 4 月

設立 昭和 58 年 3 月 資本金 50,000,000 円

売上高 21億8700万円【2012年度】事業内容・レストラン経営・テイクアウト・冷麺製造・販売・惣菜販売

◆視察時の状況

- ① 視 察 日 平成 26 年 11 月 25 日 (火)
- ② 視 察 時 間 午後 3時30分～午後 6 時
- ③ 視 察 会 場 (株)中原商店本社 レストラン
- ④ 応対者職氏名 小森田 節雄経営本部 部長
- ⑤ 説明者職氏名 邊 龍雄代表取締役社長
- ⑥ 写 真 添 付



◆視察先調査事項の概要

現在、『盛岡冷麺』は、盛岡市の主要な土産として全国に認知されている。そのことから如何にしてそのブランド商品が誕生したのか。社長から経営理念、今の消費に纏わる話、企画手腕について調査取材。

◆調査事項に対する会派視察目的

八街市のブランド品と言えば「落花生」だが、さらに全国展開できるブランド商品開発についてのヒントを探るため。



◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

①20数年前に邊社長と面識があり「盛岡冷麺」が、現在では岩手県、盛岡市を代表するまでに成長その経緯について伺うことにした。

当団体から今回の視察先を選定した理由を記載してください。

②八街市は、ラッカセイを全国展開しているが、TPPなど考えるとさらにブランド化に努めなければ生き残れない。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

邊社長の経営理念、特に消費者に対する食の安心安全は、相当のものがありました。八街市でもジンジャエール、ピーナッツ入り餃子等があるがまだメジャー化していない。その他農産物のメジャー化も実現していない。「ピーナッツ」だけで八街農業は存続を図れるか懸念している。

(2) 紫波郡紫波町 駅前区画整理事業について

◆紫波町の概要

紫波町は、岩手県内陸部に位置し、東は北上高地、西には奥羽山脈が縦走、中央を北上川が南北に流れています。総面積は239.03km<sup>2</sup>。内陸性気候のため気温の日較差一年較差が大きく。年間平均気温は10.5°C、年間降水量は1,358mmです。交通の便が良いJR東北本線沿いで宅地化が進む一方、豊かな自然を背景に町のいたるところで美しい農村景観が形成されています。紫波町は、都市と農村の機能を併せ持つ良好な生活環境を有しています。総人口は、昭和30年の30,199人から減少を続けたものの、昭和40年代から増加、平成17年には33,692人になりました。しかし、住民基本台帳などの人口の推移から、総人口の伸びは平成16年にピークを迎え、減少に転じたことが明らかで、今後、人口は減少傾向で推移するものと考えられます。10年後の平成32年には31,445人になると見込まれます。総世帯数は、一貫して増加の傾向にあります。平成22年、平成27年、平成32年と総人口が減少する中でも総世帯数は増加が続き、平成32年には10,870世帯になると見込まれます。

◆視察時の状況

- ① 視 察 日 平成26年11月26日(水)
- ② 視 察 時 間 午前10時～12時
- ③ 視 察 会 場 「オガールプラザ」
- ④ 応対者職氏名 オガール紫波株式会社 中村 重雄取締役
- ⑤ 説明者職氏名 同上
- ⑥ 写真添付



◆視察先調査事項の概要

盛岡市のベッドタウンとして人口増が進んでいる紫波町の紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」について

◆調査事項に対する会派視察目的

全国で駅前区画整理事業が失敗する中で「オガールプロジェクト」は成功している。その秘密を調査研究するため。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

八街市北口には、6000㎡の塩漬けの土地があり、駅前開発の税収効果が挙げっていない。そこで区画整理事業の成功事例の「オガールプロジェクト」について学び、市の街づくりに活かすため。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

何と言っても町が、まちづくりプロジェクトの中心となり、まちづくりコンセプトの統一を図っており、無秩序な開発をさせていない。そして何と言っても市民協働の精神が生きている。したがって民間資本の導入も積極的に図っているが、あくまでも町のコントロールの下に進んでいる。『別紙オガールプロジェクトの概要参照』

(3) 紫波郡矢巾町      矢巾町文化会館（田園ホール） について

◆町の概要



町制施行 昭和41年5月1日

人口 26,893人(11/1現在)

面積 67.28km

行政区数 41行政区

小学校 4校(約1,500名)

中学校 2校(約900名)

高校 1校

岩手県のほぼ中央に位置し、県都盛岡市に隣接、盛岡広域都市圏に属している。西は岩手県雫石町、北は盛岡市、東は盛岡市と紫波町、そして南は紫波町に隣接し、西部には南昌山(848m)がそびえ、その麓に広がる平坦な地には東北縦貫自動車道、東北新幹線、JR東北本線、国道4号が縦断し、東端を北上川が流れている。自然災害は少なく、多くが水田である農地と都市郊外型の住宅地が混在した町である。

#### ◆視察時の状況

- ① 視察日 平成26年11月26日(水)
- ② 視察時間 午後2時～4時
- ③ 視察会場 矢巾町文化会館(田園ホール)
- ④ 応対者職氏名 議会事務局 吉田 徹係長、藤原義一議長
- ⑤ 説明者職氏名 教育委員会 立花 常喜社会教育課長、西野 修同課長補佐、同生涯学習係阿部 浩司、中田 浩彰田園ホールチーフ【指定管理者〈東北共立・寿広グループ〉】
- ⑥ 写真添付



#### ◆視察先調査事項の概要

## 建設経費のねん出方法、維持管理の方法、田園ホールの効用

### ◆調査事項に対する会派視察目的

市民の文化会館建設の熱意にどう応えるか。また、懸念される維持管理費をどのようにされているか。

### ◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

岩手県内のクラシックホールとして初めて平成2年開館した。当時、約17億円で建設20年以上前に建設された。現在でも存在は色あせていない。八街市の民度向上のためには、文化会館建設が絶対必要と思われるため。

### ◆市政の課題等に対し参考になった点等

20年前以上に建設された文化会館が、現在もしっかりと機能している。愈々文化会館の必要性を痛感した。既に指定管理者制度を実施し、町政の負担軽減を図っていた。八街市の文化会館建設の熱意がますます湧いてきました。

また、特に児童生徒の情操教育にも文化会館の存在意義があり、また、音楽教育でも優れた成果を挙げている。『別紙矢巾町視察資料参照』

## (4) 岩手県滝沢市 I P U滝沢市アグリ I T研究会について

### ◆市の概要

人口 55,063人(平成26年3月31日現在)

滝沢市は、盛岡市の北西部に位置し、東西約14km、南北約20km、総面積182.32kmである。市役所は盛岡市中心市街地から8kmの距離にある。秀峰岩手山をいただき雫石川、北上川が流れ、気候は内陸性気候である。岩手山麓部から平坦部にかけて、酪農、米、野菜等を主体とした都市近郊農業地帯である。

現在では、平坦部より民間宅地開発、事業所、大学の立地が進み、都市化が進行し、街路や下水道などの都市基盤整備の整備等に取り組んでいる。特に本市東部地域は、平成10年に岩手県立大学が開学し、盛岡大学などの私立大学、岩手県立農業高校、試験研究機関等が集積している。平成14年には行政経営理念を制定。平成17年3月には住民の暮らしに着目し、住民協働で第5次滝沢市総合計画を策定。「人と人、人と地域、人と自然が共栄し、生き生きと幸せ輝くたきざわ」を10年後の将来像とし各種施策を展開している。

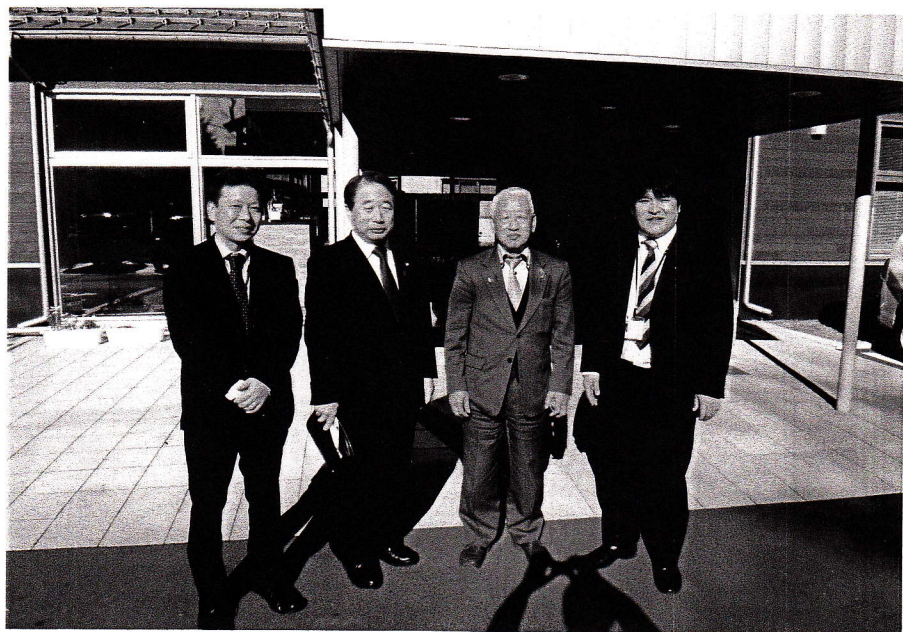
また、これまでの自治への変革にむけた独自の活動が着実な成果をあげていることに高い評価を受け、2006年度日本経営品質賞地方自治体部門を受賞した。議会としては、議会時報の積極的な発信を行い、住民に開かれた議会として意欲的に議会の活性化に取り組んでいることに高い評価を受け、各都道府県から推薦のあった34議会の中から特に顕著な事績があると認められ、平成21年度町村議会特別表彰を受章した。平成26年1月1日から滝沢市議会基本条例の施行によ



り通年議会が始まっている。

◆視察時の状況

- ① 視 察 日           平成26年11月27日(木)
- ② 視 察 時 間       午前10時～12時
- ③ 視 察 会 場       滝沢市役所、滝沢市イノベーションセンター
- ④ 応対者職氏名     中道 俊幸議会事務局長、経済産業部 福田 一宏部長
- ⑤ 説明者職氏名     企業振興課黒沼 弘課長、木下昇三総括主査、赤迫 満主査(IPUイノベーションセンター勤務)
- ⑥ 写真添付



◆視察先調査事項の概要

滝沢市アグリIT研究会（IPU）について(産学連携、農業分野のアグリIT化研究会による先進農業の研究成果(別添資料参考)

◆調査事項に対する会派視察目的

八街農業が生き残るためには、先端農業分野の研究をする必要がある。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

八街市の農業人口は、高齢化と後継者不足により減少傾向にある。その中でいかに農業を継続していくか、ITを駆使して新しい農業を模索するため。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

農業の振興はいかにすべきか。八街市の先端農業の取り組みが見えない中で何

を為すべきか。滝沢市での一例を挙げれば、スイカ糖度計を開発中とのこと。八街市では、スイカを切らないと糖度測定できないが、開発中の物は、外からスイカの表皮に当てれば、分かるという。

八街市の農業振興は先端農業の研究が不足している。LED農業、など新しい農業などにと取り組んでいかないと時代の孤児になるのではないかと心配である。視察の成果を市政に反映できるように働きかけていきたい。